平成２６年度第４回鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会権利擁護部会　議事録

日　時　平成２７年１月１９日（月）　午後６時から午後７時１０分まで
場　所　総合福祉保健センター　４階　研修室
出席者　矢野邦浩部会長、吉田浩滋副部会長（こども課再任用）、大竹学部会員、
　　加藤勝久部会員、大石しのぶ部会員（高齢者支援課主査）、五十嵐菜摘部会員
　　藤吉峰夫部会員
欠席者　黒岩史郎部会員、谷口健部会員（高齢者支援課主査補）、松村幸江部会員
事務局（障がい福祉課）　山田英一課長、藤嶋晶子係長、秋本卓主事補
公開・非公開の区分　公開
傍聴者　なし

配付資料
・式次第
・チェックシートのタイトルについて
・チェックシート
・鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会への報告

１　部会長挨拶

（部会長）

平成２６年度最後の権利擁護部会会議ということで、平成２６年度のまとめ等を行っていきたいと思う。

２　チェックシートについて

（部会長）

チェックシートのタイトルの案を部会員に募り、まとめさせていただいた。資料（チェックシートのタイトルについて）を確認していただき、ご意見をいただきたい。

（部会員）

資料（チェックシートのタイトルについて）の⑥の「できることチェックシート」に付け足す形はどうだろうか。

（部会員）

内容的には、「自立生活度チェックシート」や、「生活能力チェックシート」が、チェックシート本来の目的を示したものになっているが、障がい者やその保護者に向けて堅苦しい印象を払しょくするためには、かまたんをタイトルに入れるのもいい案かもしれない。

（部会員）

タイトルに関して、かまたんを加えることで、優しいイメージのタイトルにするという案と、堅苦しくともしっかりと内容を表したものにした方がいいという２つの案が出ている。この２つの案を満たす、「成年後見かまたん見守りチェックシート」というタイトルはいかがか。

（部会長）

では、「かまたん」、「成年後見」ともに含むタイトルにしたいと思う。まずは、仮のタイトルとして「成年後見かまたん見守りチェックシート」というタイトルで使用していく。

次に内容について検討を行う。配付資料のチェックシートを見ると、特に最初の項目が大きく変わっている。これに関して、意見をいただきたい。

（部会員）

今回、チェックシートの内容を検討するにあたって、成年後見制度の代理行為目録（保佐・補助用）の資料を基に、前回の権利擁護部会会議で講師をしていただいた小川先生のアドバイスを活かしながら内容を整理してみた。

（部会員）

内容については、精査していけばキリがなくなってしまう。まずは、試用して不具合があれば、たえず改良していくというやり方をとっていくべきである。

（部会員）

実際に対応する職員が、加工してもいいと思う。そういった意味では、良いたたき

台になっているのではないかと思う。

（部会員）

チェックシートの内容自体を理解することができない人が、本当の意味で支援が必要な人だ。そう考えると、成年後見の必要性に気付いてもらうきっかけとして、チェックシート自体は、シンプルなもので問題ない。

（部会員）

チェックシートの使用方法として、障がい者本人が１人でチェックするのか、誰かと一緒にチェックするのかによって言葉の選び方も変わるだろう。

（副部会長）

このチェックシートの使用方法には、いくつかのパターンが想定される。本人が記入することは、基本的には前提にしていない。保護者や支援者等に記入してもらうということを十分に理解してもらえば、成年後見制度の必要性に気付いてもらうためのいい道具になると思う。

（部会長）

このチェックシートで、試用していきたいと思う。提案としてチェックシートのタイトルにかまたんを加えるにあたって、かまたんのイラストをチェックシートのどこかに入れたいと思う。かまたんのイラストが入るだけでも、ずいぶんと印象が変わると思う。

３　平成２６年度のまとめ

（部会長）

昨年度は、鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会に提言を出させていただき、その結果として基幹型相談支援センター設置に係る検討委員会ができた。

今年度は、報告という形をとりたいと考えており、「鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会への報告」という資料を配付させていただいた。ここに、来年度の課題等を追加して、権利擁護部会の平成２６年度のまとめにしたいと考えている。特に、「鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会への報告」の（３）支援のシステム化については、来年度に向けての検討課題だと思う。今年度の報告に関して意見をいただきたい。

（部会員）

「鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会への報告」の内容について、（２）市民後見人の養成についての部分に「研修を受講しただけでは選任することは困難であり、一般市民に後見を任せる際には、組織的な後ろ盾が必要である」とあるが、この組織的な後ろ盾というのは、具体的に何を指しているのか。

（部会長）

前回の権利擁護部会会議における、講師の小川先生の講義にあった内容を指している。市民後見を行うにあたって、相談できるところが必要であると理解いただけたかと思う。ただし、この点については具体的に話し合ったわけではないので、来年度は

より踏み込んだ話し合いができればいいと考えている。

（部会員）

相談支援員の立場から、支援のシステム化について意見を述べさせていただくと、基幹型相談支援センターと協力する際に、後見人の仕事では別の専門性が必要ということがある。協力の必要はあるが、役割をしっかり分けることも大切ということも考えていただきたい。

（副会長）

今年度のまとめとしては、この報告書の内容でいいと思う。（３）支援のシステム化の部分は、基幹型相談支援センターと成年後見センターを分けて書いているのがいいと思う。

（部会長）

皆さんの了承を得たということで、細かい点に関して事務局で修正をしていただいたうえで、「鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会への報告」を平成２６年度の権利擁護部会からの報告書として提出させていただきたいと思う。

４　その他

（部会長）

平成２７年度は、支援のシステム化についてを中心に検討していく形でよろしいか。加えて、市民後見の養成についても徐々に具体化していきたい。

（部会員）

市民後見の養成については、どんな後ろ盾が必要か、具体的にどんな役割か等を含めて検討する必要があるだろう。

（部会長）

現在の委員の任期は、今年度までとなっているので、新しい委員が何を話し合うか道筋をつけておく必要があるだろう。

（部会員）

基幹型相談支援センターを実際に運営しているところを参考にして検討を進めるのもいいだろう。

来年度に関しては、支援のシステム化を中心に検討するということでいいと思う。その他の議題としては、現在成年後見制度の部分で相談支援員が専門性について悩んでいるという現状がある。実際に動いている人が安心して動けるよう勉強会を開催する等の手助けが必要だろう。

（部会員）

会議の回数を増やすことも検討するべきだ。具体的には、月に１度くらいは会議を開くことで、より深く検討することができるのではないか。

（部会員）

成年後見制度については、地域包括支援センター等の他の機関との連携もかなり必

要になるだろう。障がい分野よりも進んだノウハウを持っている所から話を聞きながら、実現しそうな話し合いをできればいい。

（副部会長）

来年度は、成年後見センターについて、何をするか、どう連携するか等を話し合えればいい。

（部会長）

来年度に向けて、統計資料により鎌ケ谷市の障がい者の現状を把握し、今後の話し合いの参考にしたい。前回の権利擁護部会会議で講義を聞いた感想として、まず近々に取り組まなくてはいけない課題に対する理由付けのためにデータが必要と感じた。来年度は、客観的なデータに基づいた話し合いができればいいと思う。

―以上―

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成２７年２月１９日

氏　名　吉田　浩滋

氏　名　大石　しのぶ